

# 令和5年度学校自己評価システムシート(県立けやき特別支援学校)

目指す学校像	安定した人間関係を形成し、「自らの病状や実態を理解し、自らの健康管理ができる力」と「基礎学力」を身につかせ、子どもたちの夢や希望の実現に向けて全力で取り組む、保護者・病棟から信頼される学校
--------	--

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 病弱教育における教職員の専門性の向上と児童生徒一人一人に応じた教育活動の充実</li> <li>2 病弱教育のセンター的機能の啓発と保護者や地域、関係諸機関に信頼される学校づくりの推進</li> <li>3 児童生徒が生き生きと学べるよう、安全・安心な学習環境の整備</li> </ol>
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者 7名 生徒 1名 事務局(教職員) 8名
-----	----------------------------------

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価					令和5年度評価(2月1日現在)		
年 度 目 標					達成度	次年度への課題と改善策	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況		
1	<p>【現状】</p> <p>自立活動の観点を踏まえ、ICT機器を活用しながら、より良い授業実践を目指し、取り組んでいる。情報教育部、保健環境部が主催し、教職員研修を計画的に行っている。</p> <p>【課題】</p> <p>・児童生徒一人一人に応じた教科指導の充実と教員の指導力の向上が課題である。「自立活動の観点を生かした教科指導に関する実践研究」をテーマに学校研究を行う。</p>	<p>①病弱教育における自立活動の観点をふまえ、児童生徒一人一人に応じた教科指導の実践を行う。</p>	<p>①-1 校内研究「病弱教育における自立活動の観点を生かした教科指導に関する実践研究」、校外の研修会に参加し、児童生徒理解、個に応じた指導力の向上を図る。 (校内研究10回実施予定、講師招聘研修会3回実施予定、関係連、全病連、校内外の研修 他)</p> <p>①-2 一人一人に応じた指導の手立てとして、教職員が効果的にICT機器を活用できるように研修を行う。</p>	<p>①-1 校内研究10回、校外の研究会や校内外の研修会に参加し、専門性を高め、児童生徒一人一人に応じた授業を実践できたか。</p> <p>①-2 教職員のICT機器の活用スキルをアップすることができたか。</p>	<p>①病弱教育における自立活動の観点をふまえ、児童生徒一人一人に応じた教科指導の実践を行うことができた。</p> <p>①-1 研究部が中心となり、「病弱教育における自立活動の観点を生かした、児童生徒一人一人に応じた教科指導の実践」について学校研究を実施できた。外部講師による研修3回、校内研究10回、小中高教員交流研修会、全病・関係連の研修などを実施し、教職員の専門性向上につなげられた。</p> <p>①-2 情報教育部による校内向けICT機器の活用研修を4回実施し、教職員のICT機器の活用スキルの向上につなげられた。日常的にICT機器の活用する教職員が増えた。</p>	A	<p>【次年度への課題】</p> <p>①-1今年度引き続き、2年目となる「病弱教育における自立活動の観点をふまえ、児童生徒一人一人に応じた教科指導の実践」について学校研究を進め、深めていく。</p> <p>①-2ICT機器の活用について、活用の目的を明確にし、教職員のスキルアップを目指す。</p> <p>【改善策】</p> <p>①学校研究をはじめ、各分掌部で病弱教育の専門性向上に向け研修を実施する。</p>
2	<p>【現状】</p> <p>・埼玉県内の小・中学校向けにセンター的機能を実施しており、病弱教育の理解推進を進めている。</p> <p>・復学に向けての支援会議を必要に応じて実施し、また校内職員に向けても復学支援会議の必要性と配慮事項等の研修を実施している。</p> <p>・コミュニティ・スクールの方向性と進め方について確認した。</p> <p>【課題】</p> <p>・本校のセンター的機能のさらなる充実と病弱教育の啓発。</p> <p>・本校の取組について、保護者や地域へ発信する。</p> <p>・令和6年度コミュニティ・スクール実施に向けての準備徹底。</p>	<p>①多様化する病弱教育の理解・啓発と病棟や他機関とのスムーズな連携、センター的機能のさらなる充実。</p>	<p>①-1 病弱教育理解推進に向け、本校のセンター的機能を発揮できたか。校外外での研修会を実施する。</p> <p>①-2 本校の概要や取組の様子などを保護者や地域に向けて発信し、ホームページを構築し、月1回以上ホームページをアップすることができたか。</p> <p>保護者アンケートの「広報活動」の項目において、7割以上の好評価を得られたか。</p>	<p>①-1 校内外において病弱教育に関する復学支援会議、高校生支援等に関する研修を実施することができたか。</p> <p>①-2 ホームページを組織的に更新できるシステムを構築し、月1回以上ホームページをアップすることができたか。</p> <p>保護者アンケートの「広報活動」の項目において、7割以上の好評価を得られたか。</p> <p>②令和6年度にコミュニティ・スクールを実施しながら計画的に準備を行う。</p>	<p>①多様化する病弱教育の理解・啓発と病棟や他機関とのスムーズな連携、センター的機能のさらなる充実を遂行できた。</p> <p>①-1相談支援部が中心になり、校内外向け様々な研修の実施、教育相談を行った。病棟や他機関とスムーズに連携し、多様化する病弱教育の理解・啓発を推し進めることができた。また、他の都府県、国の教育委員、特別支援学校関係者が学校視察のため来校し、本校の実践と現状を紹介できた。さらに初任者研修の会場校研修を閉校以来初めて行い、病弱教育の理解・啓発を推し進められた。</p> <p>①-2学校ホームページについては、更新方法を職員に周知し、月平均5回更新するなど、積極的に取り組めた。ホームページを閲覧していない保護者が多く、課題が残る。</p> <p>②令和6年度コミュニティ・スクールを実施できるよう準備を徹底することができた。準備委員会を立ち上げ、規約や人選などを検討し、計画的に準備を行った。</p>	A	<p>【次年度への課題】</p> <p>①多様化する病弱教育のさらなる理解・啓発。</p> <p>②コミュニティ・スクールについて綿密に準備を行い実施する。</p> <p>【改善策】</p> <p>①-1校内外向けへの研修を開催する。</p> <p>①-2学校視察を可能な限り受入れる。</p> <p>①-3校内外に向けた情報発信を工夫する。</p>
3	<p>【現状】</p> <p>・安全・安心な学校づくりに向け、保健環境等の職員研修を計画的に行っている。</p> <p>・昨年度から「事故報告」の報告方法を見直し、小さなけがでも全体に周知するようにした。</p> <p>・ICT機器の環境整備を行ってきたが、管理徹底に課題が残っている。</p> <p>【課題】</p> <p>・昨年度の「事故報告」をもとに、学習環境を見直し、事故ゼロを目指す。</p> <p>・ICT機器の活用充実と環境整備を行う。</p> <p>・教職員の働き方改革に向け、風通しの良い働きやすい職場作りを目指す。</p>	<p>①物的環境面、人的環境面において、安全安心な教育環境を整える。</p>	<p>①-1 過去の「事故報告」をもとに振り返り、事故防止・再発防止に向けた職員研修を行う。教職員全体で緊急時の対応や防災・防犯対策について確認・周知する。</p> <p>①-2 ICT機器の効果的な活用に向け、環境整備を行い、教職員で共有する。</p>	<p>①-1 事故防止に向けた職員研修を実施できたか。</p> <p>①-2 ICT機器の環境整備を組織的に行えたか。</p>	<p>①物的環境面、人的環境面において、安全安心な教育環境を整えることができた。</p> <p>①-1指導部、保健環境部、情報教育部が中心になり、教職員向けにそれぞれの分掌の観点から安全で安心な教育環境に向け、研修を行った。大きな事故には至ることはなかったが、今後も油断せず、事故につながる可能性を想定し、事故防止に向け環境を整えていく。</p> <p>①-2ICT機器について比較的適切に管理運用ができた。情報セキュリティに関する研修、ICT機器の計画的な更新と精査が今後も課題である。</p>	A	<p>【次年度への課題】</p> <p>①事故の未然防止、防災・安全計画、ICT機器の危機管理意識など、引き続き安全安心な環境づくりに向け取り組む。</p> <p>②教職員のライフスタイルに合わせた心と体の健康増進を推進する。</p> <p>【改善策】</p> <p>①引き続き事故未然防止研修(例えばヒヤリハット研修)の実施、防災計画の整備、再確認、ICT危機の管理、整備などを実施する。</p> <p>②衛生委員を中心に、職員とのコミュニケーションを図る場を増やし、風通しの良い職場の雰囲気づくりを行う。</p>

学校関係者評価	実施日 令和5年2月13日
学校関係者からの意見・要望・評価等	<p>・病弱教育において、自立活動の視点とICT機器の活用が重要であることを改めて認識した。ICTというオンラインを見るのみ(受け身)と捉えがちだが、病弱教育ならではの活用方法で、教科学習や体験学習でリアルな体験・活動を引き出していることが素晴らしい。</p> <p>・ICTの活用がコロナが明けても引き続き充実しているのが良い。</p> <p>・保護者としては、入院中の学習空白を埋める取組を充実させてほしい、と思う。学校によって、教科学習の進度や単元の履修時期が違うことがあり、積み残しが生じることが危惧される。</p> <p>・校外への発信について、地域や大学など他機関に向けて積極的に発信していることに感謝する。センター的機能、病弱教育の教育的機能を引き続き担ってほしい。</p> <p>・本校(小・中学校)も今年度から学校運営協議会の形をとっているが、「学校が独りよがりにならない」ことがとても大切であると感じた。学校の地域の力を借りることが、多様な子供や保護者の支援につながると思う。コミュニティ・スクールを実施していくことで、さらに社会に開いていけるとよい。</p> <p>・先生方の健康があつていそいそ教育活動につながる。職員の心と健康に向けた取組や研修があり、素晴らしい。</p> <p>・入院中、先生方がいつも学校にいるイメージがあるので、健康に気を付けてほしい。</p>